
Seminar

[SW] Special small session

Sat. Mar 30, 2024 1:30 PM - 3:00 PM Site A (Tachibana)

2:30 PM - 3:00 PM

[SW-03]青刈りトウモロコシ生産におけるツマジロクサヨトウ対策

○Masayuki Hayashi¹, Naoki Kato², Sachiyo Sanada-Morimura³ (1. KARC, NARO, 2. AFFRC, MAFF, 3. NIPP, NARO)

ツマジロクサヨトウ（FAW）は広食性の害虫だが、特にトウモロコシを好んで加害することが報告されている。国内では殺虫剤が散布されることの少ない、青刈りトウモロコシでの被害が予想されることから、青刈りトウモロコシを対象に、九州での被害状況や、収量への影響について調査を行った。また、FAWの有効な防除体系を検討した。夏期に播種する作型（夏播き）において殺虫剤を定期的に散布する防除区と、防除を行わない無防除区とで収量を比較したところ、無防除区の収量は防除区よりも17%低下しており、防除が必要と考えられた。次に、FAWの防除に有効な体系を検討するため、殺虫剤の散布時期や回数について、複数年の試験で検討した。その結果、生育前半に1~2回の登録薬剤による防除を実施することで、乾物収量への影響を軽減できる事が明らかになった。以上から、FAW発生状況に応じて生育前半に1~2回の薬剤防除を実施することが青刈りトウモロコシでのFAW被害軽減に有効と考えられる。